

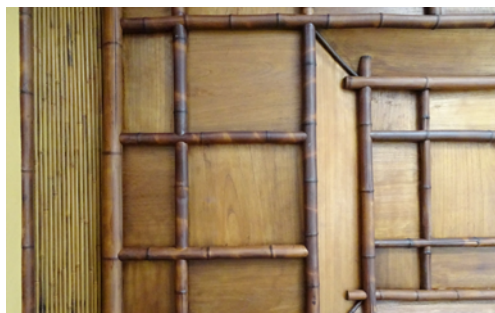
2階 和室

主室は 13.5 畳に 4 畳の床の間を付し、棚と付書院を配した数寄屋風の書院造りで、周囲には広縁を廻しています。ワイン王に因んだ葡萄の意匠を取り入れ、銘木類を多様するなど、贅が尽くされています。また、完全な洋館の中に和室を組み込んだ初期の貴重な作例でもあります。



山水や獅子などの蒔絵がはめ込まれた付書院の組障子

外観の洋風に溶け込む広縁の先の出窓状のアルコーブ(くぼみ)



囲炉裏で長年燻された飴色の煤竹を組んだ格天井

竹の皮で編まれた床の間の網代天井



一枚板をくり貫いた木瓜型の飾り窓



三大唐木の一つ・鉄刀木障子の障子



面皮を残した杉の柱と長押